

# 「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 国東 開催概要

[開催日：令和4年6月30日(木)]

【学校訪問】国東市立志成学園

【訪問者】大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）  
国東市教育委員会（河野教育長、学校教育課長 他）

## (1)学校の概要説明

国東市立志成学園は、武蔵東小学校、武蔵西小学校、武蔵中学校の閉校にともない、国東市で唯一県下でも二校目の義務教育学校として開校した。

「夢・志の実現 一歩前へ！～地域を愛し 志をもち グローバル社会を生き抜く児童生徒の育成～」を学校教育目標とし、学校・家庭・地域が協働して取り組める体制を構築し教育活動を進めている。あわせて、児童生徒も校訓等をもとに児童生徒会を中心に創った「志成魂」を胸に学びに向かっている。

1～9年生まで在籍している義務教育学校ならではの利点を生かし、前期4年(定着)、中期3年(充実)及び後期2年(発展)に編成し、独自で中期から教科担任制を徐々に導入したり、全校で統一した学習・生活指導を行うなど、9年間を円滑に接続するための取組も進めている。



夢・志の実現と社会を生き抜く児童：生徒の育成をめざして（志成学園 畑野校長）

## (2)授業参観

「授業規律が守られ、児童生徒が集中して学習に取り組んでいるか」、「自分の考えをもたせるための工夫がされているか」、「周りの人と考えを交流するための工夫がされているか」を視点に児童生徒の夢・志の実現と、社会を生き抜く知識や技能等の習得を目指して様々な教育活動を実践している。

授業では、親和的な関係性のもと、学びを深めている児童生徒の様子が見られると同時に、実態に応じた細やかな学習指導が行われていた。



ホウセンカを実際に観察することで理解を深めていく授業の様子

## (3)意見交換会（主な意見）

- ▶低学年の子どもたちが集中していて、授業態度がよかったと感じた。児童の受け答えもよかった。
- ▶先生方の板書の字がきれい、どの学年の板書も統一化された構成になっていた。学年が変わっても子どもたちが同じ視点で板書を見ることができ、学習内容の理解のしやすさが先生や学年によって異なるということは少なくなると思う。先生の字がきれいだと、子どもたちも見やすく、学習意欲も高まるだろうと感じた。
- ▶小さい学校では保育園から中3まで1学年1クラスであることが多く、子どもたちがほとんど変わらずクラス替えも無いことがある。力関係も同じような状態で卒業し、高校で心を壊す子どもがいる。志成学園も1学年1クラスが多いので、他校の子どもと行動を共にするような交流を広く取り入れて、いろいろな子がいるという体験をさせていくとよいのでは。

【訪問】国東市公営進学塾「夢道塾」

【訪問者】大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）  
国東市教育委員会（河野教育長、学校教育課長 他）

国東市公営進学塾「夢道塾」は、進学をめざす国東高校生が利用でき、個々の生徒の理解度に応じて高校の授業をサポートしながら、学力向上や進路実現を支援することを目指して開設した。

一人ひとりの学力・進路希望に応じて個別のカリキュラムを作成するとともに、指導方法についても個別指導だけではなく、映像指導も加えたハイブリッド個別指導を実施し、生徒の進路実現を支援していく。



公営進学塾「夢道塾」

【意見交換会テーマ】「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上  
～教育格差と進路保障について～

【出席者】学校訪問参加者、国東市長及び国東市教育委員、  
小・中学校・義務教育学校・高等学校長等

**都市部との教育格差の解消に向けて**

- ▶少子化が進行していく中で、子ども達を取り巻く教育環境の差は都市部と周辺部を比べると大きく、この部分が教育に対する不安や教育格差を生む原因となっている。この状況をどのようにして解消していくかが重要。
- ▶学校では学力向上に向けて組織的な授業改善をすすめ、市の指導主事も授業研究等のサポートを行っている。また、教員退職者を中心とした地域住民が放課後や休日に子どもの学習を指導する学び塾や放課後英語教室を実施している。今後も、学校の特色を生かした放課後の教育活動に取り組み、教育環境の充実を目指していく。  
義務教育終了段階の子ども達の学力保障を図るとともに、家庭が安心した子育てや子どもの教育に関われる環境を整えていきたい。
- ▶国東高校は国東市の振興に欠かせない存在であるが、市内の中学校から進学する生徒が減少している状況となっている。国東市、県教育委員会及び国東高校等と一緒に、この状況を解消する取組をすすめる必要がある。
- ▶国東高校に2024年度から宇宙コースを新設、全国から生徒の募集を行うことになった。これにより宇宙に関心を持つ生徒を呼び込み、国東高校の魅力化を図ることができる。国東市も県教育委員会や国東高校等と協力していきたい。



地域の子どもは地域で育成を  
(三河市長)



教育格差の解消の実現を  
(河野市教育長)

**【主な意見】**

- ▶今の時代、少子化高齢化、地域間競争が現実になっているなかで、どう国東市が生き残るか考えたときに、教育環境について外の人に理解してもらいしか無い。教育の町 国東をアピールする戦術が重要。明確な答えを出すのが難しいなかで努力されているという感想。将来的に地域を担う、児童生徒を育てていただきたい。
- ▶小学生のうちから学力をつけていけば、好きな進路を選べると思う。学習する習慣がついていなければ結局どこにも進めないし、仕事についても飽きてすぐ辞めてしまう。ひとつのことをやりきる力を小さいうちからきちんと育ててほしい。今すぐ結果が出なくても、きっと大きな結果が付いてくると思う。国東市は非常にうらやましい環境である。取組は始めるのが早ければ早いほど成果もある。応援したい。
- ▶国東高校に2024年度から新設する宇宙コースについては今が正念場。ここで失敗できない、必ず成功させなければならぬと思っている。県と市が手を携えて、ぜひ次のステップを踏んで、国東高校がさらに素晴らしい学校になるようお互い努力が必要。

**【意見交換を終えて(岡本県教育長から)】**

初めて志成学園を訪問したが、大変良い取組をされていた。市が取り組んでいる中学校の取組について、県もできるところはしっかり支援していきたい。

国東高校については宇宙コースを含め、生徒の出口をしっかり確保し、行く価値のある学校にしていきたい。地元で就職してもらうのが一番であるが、よそで働き口を見つけてもいずれ帰ってくることもある。そこは行政がしっかりやりたいところであり、今後も協力いただければ大変心強い。



課題解決のために必要な支援を  
(岡本県教育長)